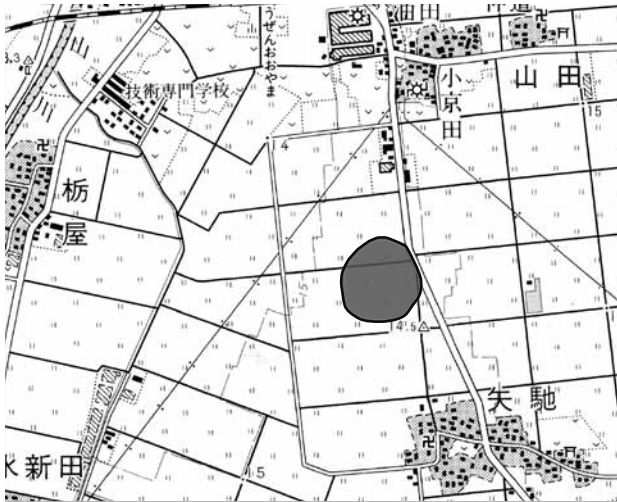


矢 馳 A 遺 跡

遺跡番号 1618
調査回数 第4次
所在地 山形県鶴岡市大字矢馳字下矢馳
北緯・東経 38度44分08秒・139度46分19秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因 日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設
調査面積 3,300㎡
現地調査 平成19年5月9日～9月14日
調査担当者 黒坂雅人(調査主任)・山内七恵・吉田 満
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良・平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・溝跡・土坑・井戸跡・ピット
遺物 土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・古銭
(文化財認定箱数:45箱)



調査の概要

矢馳A遺跡は、庄内平野の南東部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地に位置しています。

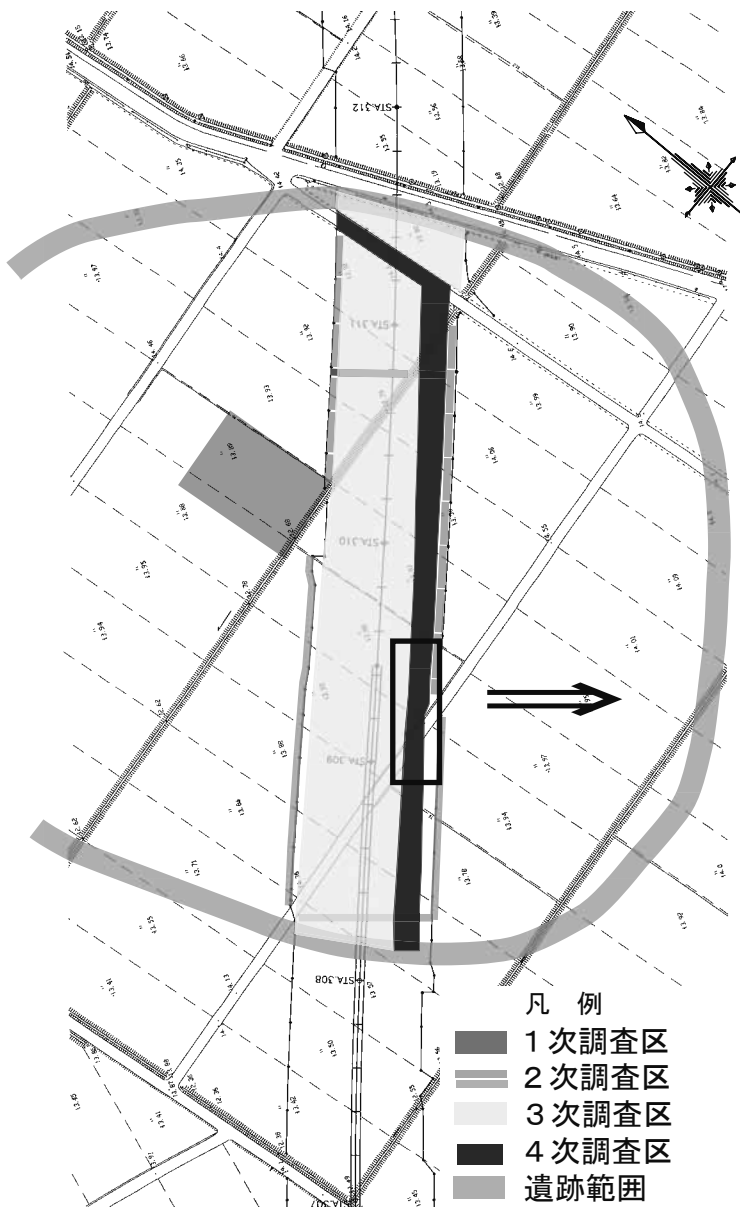
昭和31年(1956)、水田への暗渠管理設などの農業基盤整備に伴う工事により発見され、昭和62年(1987)県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)の実施に先立ち、山形県教育委員会が行った第1次発掘調査により古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が明らかとなりました。第2次から第4次発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道建

設に伴い、第2次調査は、路線の周りに新しく設置される農業用排水路と用水管理設部分、第3次調査は、道路本線部分を対象とし、古墳時代の集落の他に奈良・平安時代の集落や河川、中世の館など多様な内容を持っていることがわかりました。

第4次となる今回の調査では、工用道路として使用されている3,300㎡について調査しました。

遺構と遺物

今回の調査では、河川跡・溝跡・竪穴住居跡・井戸跡・ピット・板材列などが見つかりました。これらは前年度同様、調査区東側では奈良・平安時代、中央部では中世、西側では古墳時代の遺構、遺物がそれぞれ主体となります。古墳時代の遺構は河川跡、溝跡が検出されました。河川跡(SG100)は遺跡の南側に位置し、村を区切るような形で検出されました。その堆積土の中から、つきたかつきかめつぼ 土師器の高坏・甕・壺などの土師器がまとまって出土しました。また、SG100の東側で、遺構確認面の約60cm下の炭化物を多く含む粘土層付近から、土師器の高坏・甕・こしき 壺・すえき 甌や、須恵器のハソウが出土しました。昨年見つかった遺物包含層の続きとみられます。これらは遺構検出面から出土した土師器より古い時期のものであることがわ

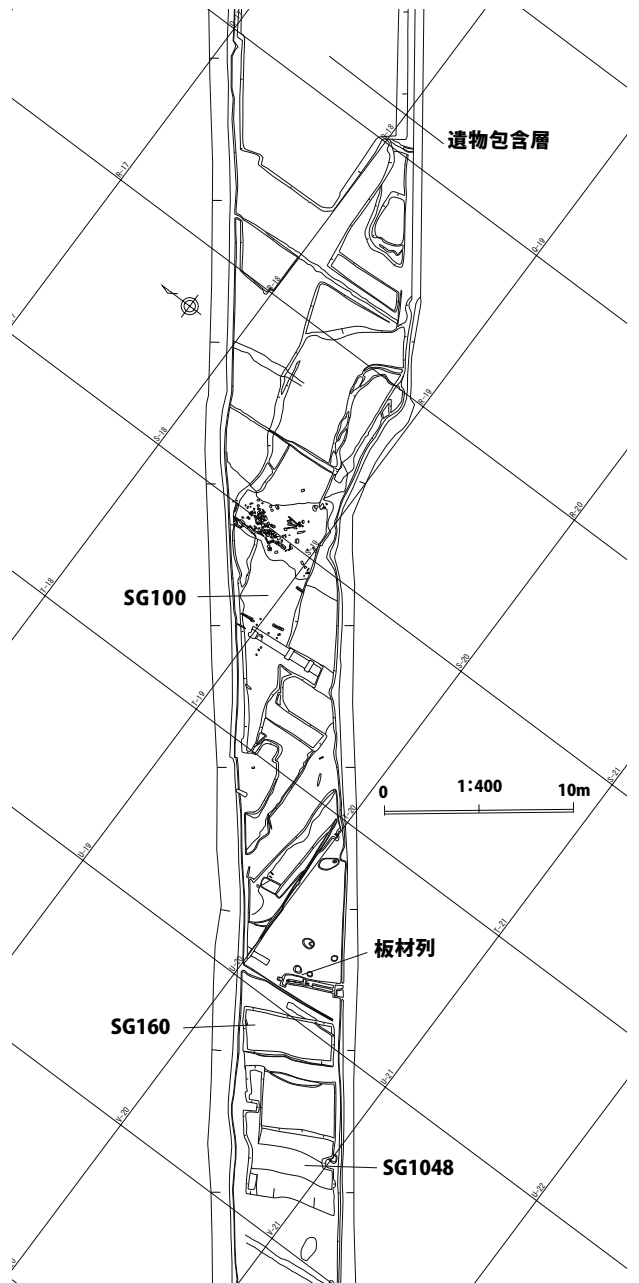


調査概要図

かっています。

奈良時代の遺構では、昨年度調査した竪穴住居跡、河川跡の続きが見つかりました。竪穴住居跡からは、土師器と須恵器の破片が出土しました。河川跡からは完形の須恵器の坏が数点出土しています。平安時代の河川跡からは、「中」という文字が墨で書かれた墨書土器ぼくしょどきなどが出土しました。

中世の遺構では、昨年度調査した館跡の外側の区画溝の続きが検出されました。一部、区画溝が途切れている箇所があり、出入り口の可能性があります。また、区画溝の南、館跡の外側にあたる所から井戸跡が見つかりました。この井戸跡には、板を縦に差し込み、四角に



主要遺構配置図

囲んだ井戸枠が残っていました。井戸の掘り方からは中世陶器の破片が出土しています。また、近世から近代にかけての堰跡からは、古銭などが出土しています。

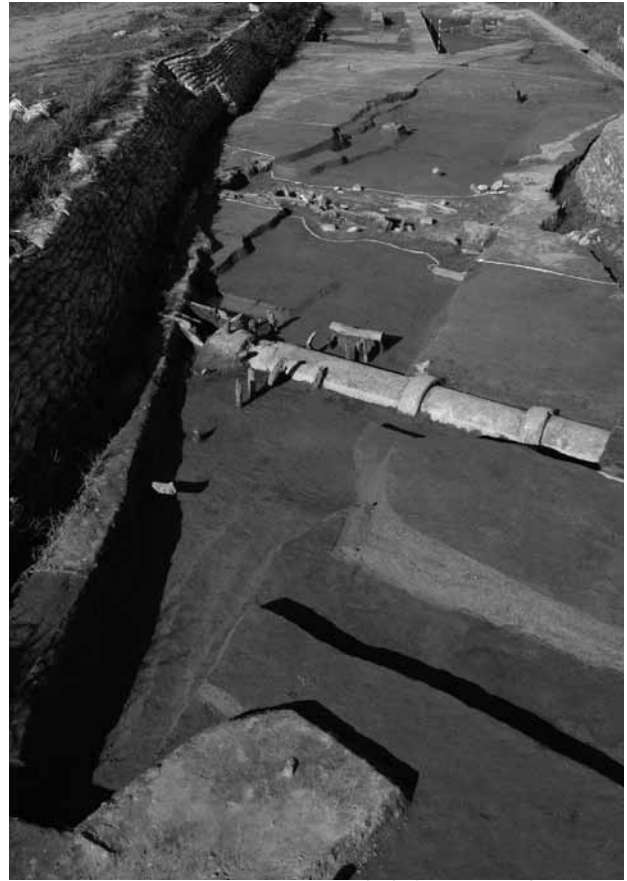
その他、時代はまだ特定されていませんが、調査区西側で板材を一列に並べて打ち込んだ板材列が見つかりました。

まとめ

今回の調査では、昨年度までに検出された河川跡、館の区画溝、遺物包含層などの南側への広がりを確認することができました。新たに古墳時代後期の河川跡 (SG100)、中世の井戸跡、板材列などを検出しました。SG100 が古墳時代の集落の南側を区切るように流れることから、集落範囲を窺うことができます。



調査区全景



古墳時代の河川跡 (SG100)



古墳時代の河川跡 (SG1048)



平安時代の河川跡



館の区画溝



中世の井戸



板材列



平安時代の河川跡出土須恵器蓋



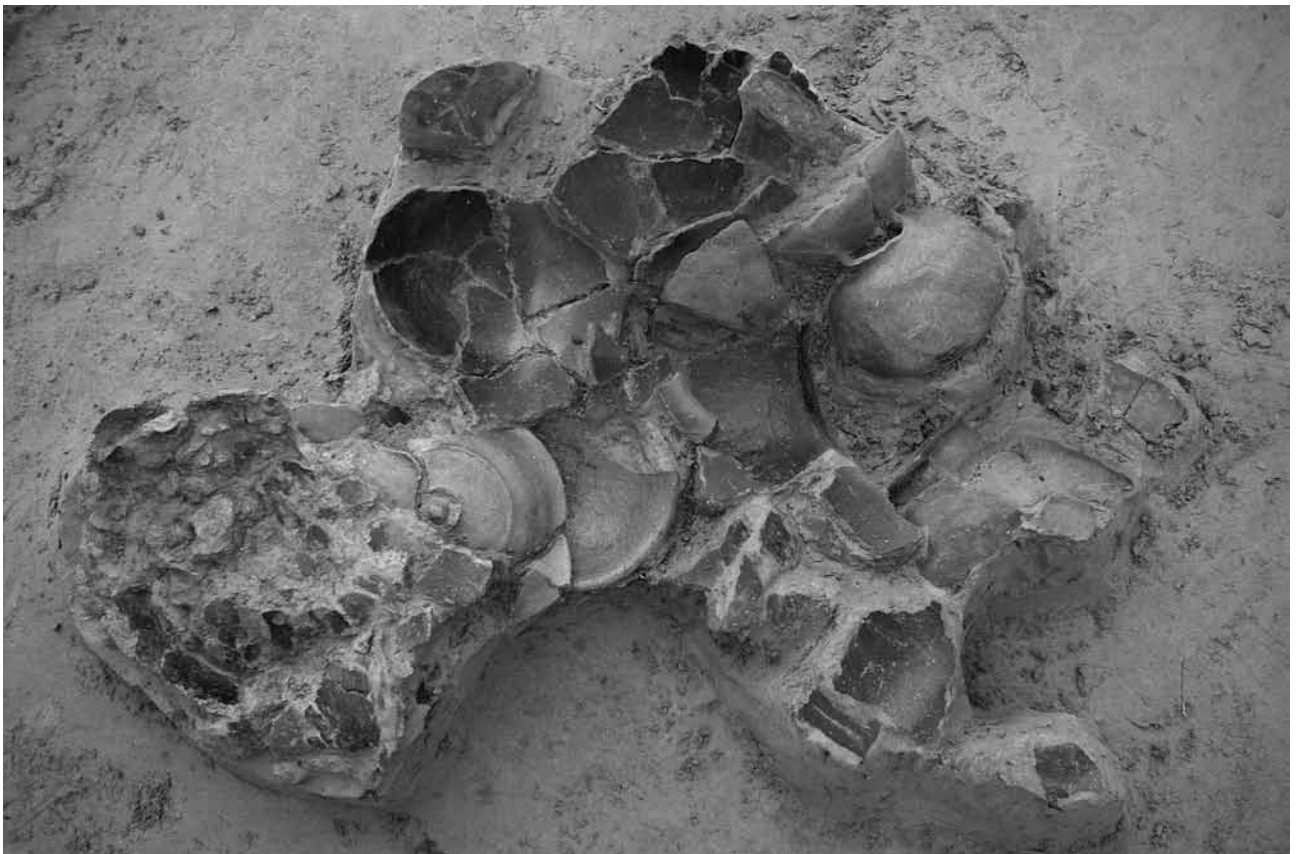
平安時代の河川跡出土須恵器坏



土師器高坏 (遺物包含層)



須恵器ハソウ (遺物包含層)



遺物包含層の遺物出土状況